

# 城山観光ホテル

部屋から、  
露天温泉から眺める  
市街と桜島の  
風景がサイコー！



## ■ 城山観光ホテル

「城山観光ホテル」は、歴史の舞台・城山に建つ老舗ホテル。標高108mの景勝地に建ち、市内の中心地にありながらもリゾート要素を持ち得たシティホテルである。同ホテルの良さは、その景色にもある。特に4階に位置した「展望露天温泉さつま乃湯」からの眺めは最高である。同温泉は、炭酸水素塩泉で、通称・美人の湯と呼ばれるほど、入浴すると肌がツルツルに。切り傷や火傷、慢性皮膚病などに適応があるとされている。近年、同ホテルで評判を呼んでいるのが朝食バイキングだ。和洋の80種類の料理はレベルが高く、市内に住む人達がこの朝食のために訪れるほどの人気ぶり。中でも楽天の朝ごはんフェスティバルで全国2位になった「鯛茶漬け」は、ぜひとも味わっておきたい一品だ。錦江湾で獲れた鯛の刺身をご飯に載せ、ゴマだれをかけたものにだしを注いで食べる。「この一品を食べるためだけに毎週日曜、訪れる」という地元民もいるくらいである。

所 鹿児島市新照院町41-1 ☎ 099-224-2211  
時 IN14:00～、OUT～11:00 休 無休 ♫ 一泊二食付20,130円～  
<アクセス>鹿児島中央ターミナルビルからシャトルバスで25分



## 鹿児島ってこんなところ？

### 溶岩風景の桜島に ふれてみる

鹿児島といえば、やはり桜島が見える街という印象でしょうか。桜島の噴火云々がよく話題になりますが、住民からすればニュースで伝わるほど不安では

なく、むしろ噴火しているぐらいが当たり前前かも。小康状態で煙が上がっていない方が不気味ですね。風向きによつては洗濯物が汚れますが、危ないと感じることは、まずありません。

桜島までは、桜島フェリーターミナルからフェリー（160円）が日中は15分毎に出航しているの、それに乗れば15分で到着します。この船は観光よりも日常利用のもの。だから通勤に使う向きもあり、人だけでも可で、24時間走っています。桜島は鹿児島市内と違った趣があり、ぜひ行つてほしいですね。桜島溶岩なぎさ公園内の足湯は、1000mあって日本最大級。フェリーを降りてすぐの場所なので時間がない人は、15分の船旅&足湯のプランでもいいかもしれません。時間があれば、桜島港からバスも出ていますので、それを利用して桜島を回ってみてください。3〜4時間あれば十分堪能できますよ。

## つけあげ、

### キビナゴは日常のもの

鹿児島の各家庭では、よくさつま揚げを作ります。スーパーに行けば、アゴやイワシ、シイラのすり身が売られており、一から捌くより、その方が便利なので買って来



鹿児島は黒豚のイメージが強いかもしれませんが、海の幸も豊富。大隅ではカンパチや鰻の養殖が盛んなので、それが食卓を賑わすこともしばしば。刺身も甘口の醤油で——、というのが薩摩流。元来、暖かい地なので保存ができるように砂糖を多用する

たすり身に野菜を混ぜて揚げるんです。鹿児島ではこの料理を「つけあげ」と呼んでいます（さつま揚げは県外の人が使っている）。もとは琉球のチキアギで、それが転じて「つけあげ」になったそうです。キビナゴもよく食べる魚ですね。青背の小魚で、すぐに劣化するの、なかなか県外には出て行かなかったの、でしょう。主婦は錦江湾で獲れたキビナゴを手で捌いて刺身にし、食卓へ出すんですが、酢味噌で味わうのが鹿児島らしいです。

嫌いがあります。かるかななどのスイーツもそうですが、醤油だつて同じ。他県の人から見れば、びっくりするくらい砂糖を使うと思うの、かもしれません。刺身も甘めの醤油で味わうし、煮物も甘め。それが鹿児島の味なんです。

来年、NHK大河ドラマで「西郷どん」が放映されるので、市内はそれで盛り上がり気味。市内を巡って、150年の前にタイムスリップしてみるのが面白いです。

## ■ 元野照美さん

城山展望台から程近い場所に建つ「城山観光ホテル」の宿泊サービス部に所属し、宿泊客に観光のアドバイスや案内を行うコンシェルジュを務めている。地元に住む薩摩レディで、黒豚のとんかつが好きという。蒸した安納芋とアイスクリームをいっしょに食べると美味しいという裏技を披露してくれた。

観光案内の専門家、  
「城山観光ホテル」コンシェルジュ・  
元野照美さんに聞きました

## 地元・コンシェルジュが 紹介する鹿児島